

市民活動団体実態調査 テーマ別まとめ（その1）

テーマ 協働ルールの範囲と協働のプログラムに関連して

「協働」という言葉について

- ・ 「協働」という言葉を聞いたことがある人は、社会的な活動団体では57%、仲間内の活動では25%

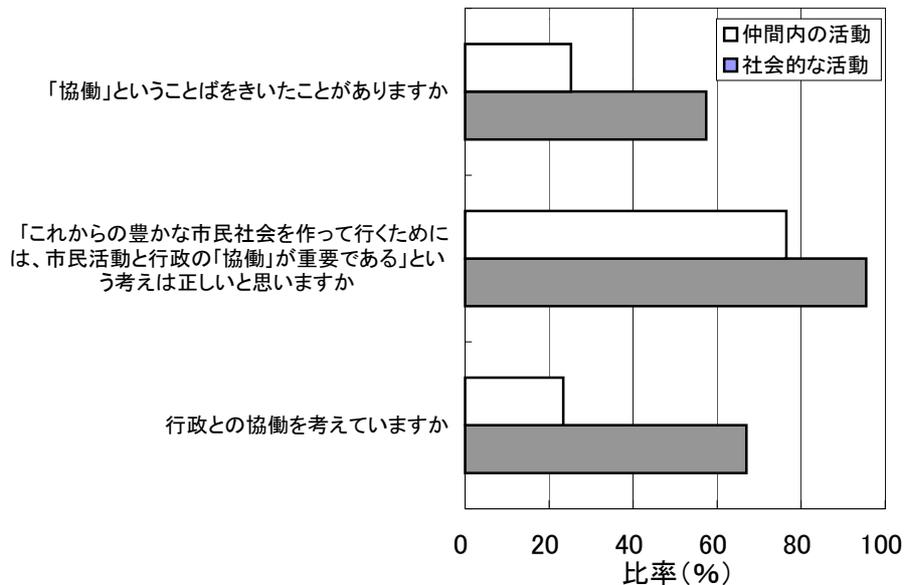
協働の重要性

- ・ 社会的な活動団体では96%、仲間内の活動団体では76%が協働が重要と考えている。

行政との協働の意思

- ・ 社会的な活動団体は積極的 7割の団体が行政との協働を考えている。
- ・ 仲間内の活動団体は消極的 2割の団体が行政との協働を考えている。

図7.1.1 市民活動と行政の協働について



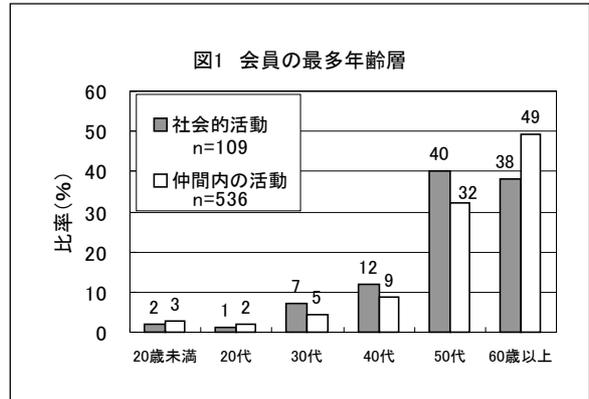
テーマ 協働ルールの主体に関連して：市民活動団体の姿

会員について

- ・ 個人のみ団体は 779 団体、団体会員のみ団体は 21 団体。両方を含む団体は 50 団体、
- ・ 個人会員総数は 49,520 人（市民の約 4 人に一人）、団体総数 1,106 団体
- ・ 会員 10 人未満が 23%、10～20 人未満が 38%、20～30 人未満が 16%で、**30 人未満の団体が全体の約 80%を占める。**

会員の最多年齢層（図 1）

- ・ 会員の年齢層は、**60 歳以上が 48%と一番多く、50 歳代を合わせると 80%**

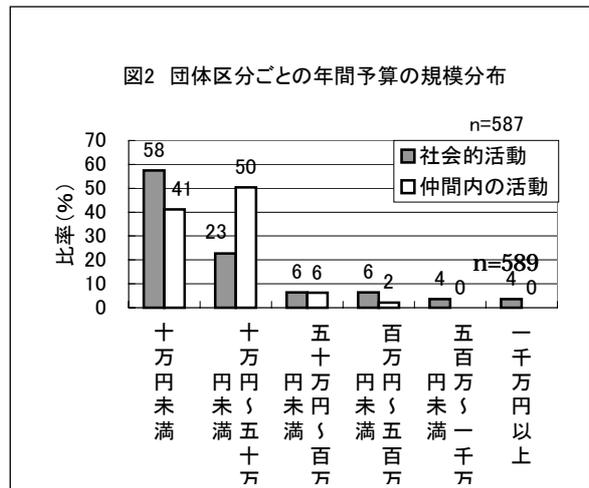


会員の男女比

- ・ 女性の割合が多い。「殆どが女性」の団体：47%、「女性が多い」団体も含めると 75%

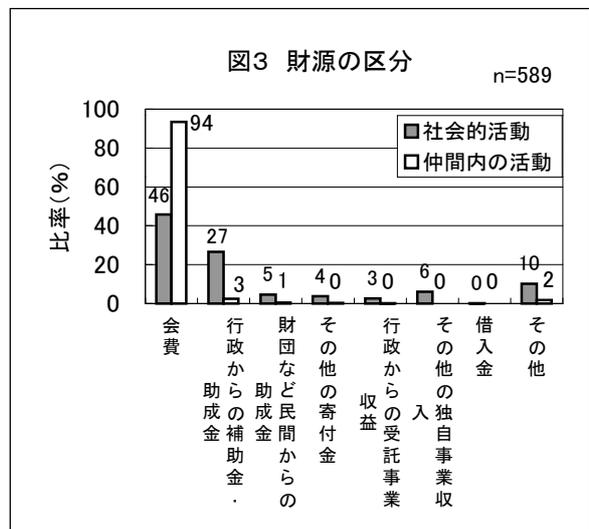
活動団体の活動の性格

- ・ **社会的な活動を行う団体が 3 割** 社会的な活動団体：16%、仲間内の活動団体：71%、両方の活動を行う団体：13%
- ・ **仲間内の活動を行う団体の 1/3 チャンスがあれば社会的な活動を行ってみたい**



年間の予算（図 2）と財源（図 3）

- ・ **9 割の団体が年間 50 万円未満の予算** 10 万円未満：44%、10～50 万円未満：87%
- ・ 財源は、仲間内の活動を行う団体では 94% が会費、4% が補助金などで構成
- ・ 社会的な活動団体では、会費が 46%、補助金・助成金・寄付金の合計が 36%、事業収益が 6%。**事業収益は、非常に少ない。**



活動分野

- ・ 「文化、芸術」(30%)「スポーツ、健康促進」(23%)で、全体の半分
- ・ 「保健、医療、福祉」、「環境保全」、「教育」、「まちづくり」がこれに続く。
- ・ **社会的な活動団体は、多分野で活動が行われている**

